

平成 27 年 2 月 15 日開催 第 8 回流域治水シンポジウム来場者アンケート結果

回答数 48

Q.1

1 今回の流域シンポジウムに参加されて、新しい気づきはありましたか。該当項目にチェックしてください。

あった

なかった

どちらとも言えない

集計結果

回答	回答数
あった	44
なかった	1
どちらともいえない	3
総計	48

Q.2

2 1で「あった」と回答された方にお尋ねします。「気づき」の内容はどのようなものでしたか。該当項目に全てチェックしてください。

雨水が洗濯に最適であるなど、雨水利用の生活面でのメリット

都市型水害対策に有効であるなど、雨水を溜め浸み込ませることの防災上のメリット

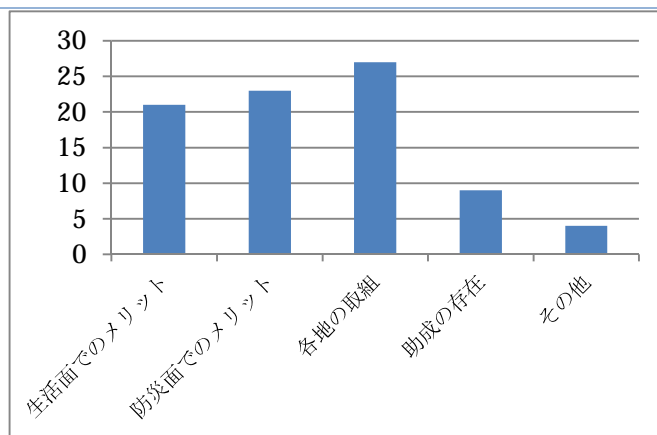
雨水を溜め、浸み込ませる取り組みが各地で行われていること

雨水を溜め、浸み込ませる施設（雨水タンク等）の設置について助成があること

そのほか（具体的にご記入ください）

集計結果

気づきの内容	回答数
生活面でのメリット	21
防災面でのメリット	23
各地の取組	27
助成の存在	9
その他	4



「そのほか」欄記述内容

- 市民を巻き込む運動の大切さ
- 教育・福祉との連携ができる事。地域の建設業者等との連携の重要性
- 雨水タンク等を安価に県（市）補助拡大
- 雨水利用推進法なるものがあること
- まだあまり進んでいないことがわかった
- 溜める施設には利水の視点からと治水の視点からあり各戸貯留の場合は多くが利水目的であるが治水に寄与する
- 水質等具体的数値を明確に示してもらいたい
- 行政、企業、NPO、市民の協働が大切
- 古くて新しい水文化という考え、新しいですね
- 特に世田谷区の実践

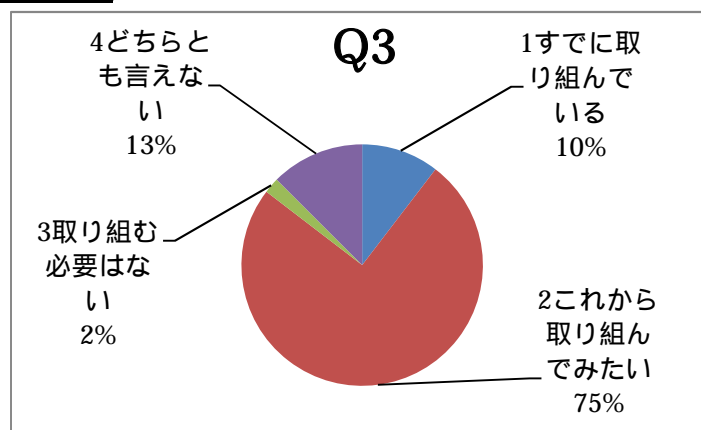
Q.3

3 ご自宅に雨水タンクを設置する、学習会を実施する等、「ためる対策」（雨水貯留浸透対策）の取り組みをしたいと思いませんか。該当項目にチェックしてください。また、その理由があれば記入してください。

- | | |
|------------|--------------|
| すでに取り組んでいる | これから取り組んでみたい |
| 取り組む必要はない | どちらとも言えない |

集計結果

回答	回答数
すでに取り組んでいる	5
これから取り組んでみたい	36
取り組む必要はない	1
どちらとも言えない	6
総計	48



回答の理由

すでに取り組んでいる。

- 建築時に再利用を図る
- 庭で飼育しているカエル池の水や園芸用の水に水道水を使うと、上水代とともに使っていない下水代の両方がかかる。水道代の節約が主たる目的。災害時のトイレ用 雨が降る前に空にすることはできない
- NPO 法人京都・雨水の会員だから

これから取り組んでみたい。

- 行政等のサポートがあれば良いと思います
- 雨水ハウスに刺激を受けた。近年の豪雨対策に少しでも貢献したい
- 琵琶湖西岸例は、急峻な地形の為、雨水が一気に流れ落ち下水が溢れる。雨水タンク設置によりこれが軽減される可能性がある
- 資金的な面さえクリアできれば、水資源の有効活用貢献できると思うから
- 実践してる！という気持ちになるのが大事なと思うので
- 節約の観点から活用（日常性）「そなえる」・・・トイレ水の活用（一番重要と思う）雨水タンクの設置義務化も必要では・・・（補助金有りを前提）建築士学会とのコラボ
- 水害に対して自分たちで減災に向けて、より良い水の再利用など身近にできそうなことだから
- 上・下水道使用料金の削減のため
- 雨が降ったときの住民、子どもの意識が変わることは大きな魅力だと思ったから。

取り組む必要はない。

- マンションのため

どちらとも言えない。

- 経済力とのバランスを考えなければならないが、自宅に最適な方法を見つけだしていきたい
- 流出抑制対策なのか節水対策なのかよくわからなかったから。留めた水を次の雨に備えて放流する意識が持続できないと思うから。
- 設置場所の問題が大きいので

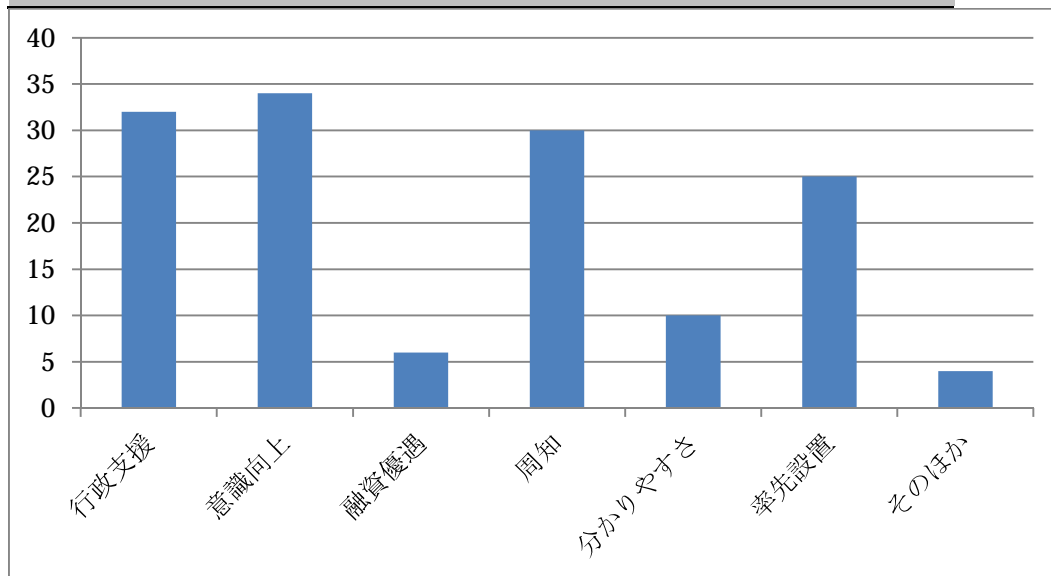
Q.4

4 「ためる対策」（雨水貯留浸透対策）の推進には何が必要だと思われますか。該当項目に全てチェックしてください。

- 補助金等、行政からの支援
- 地域住民の意識向上
- 住宅ローン等融資での優遇
- 雨水利用の必要性やメリットの周知
- 関連商品購入先や相談先がわかりやすいこと
- 公共施設や企業における率先した雨水貯留浸透施設の設置
- そのほか（具体的にご記入ください）

集計結果

項目	回答数
補助金等、行政からの支援	32
地域住民の意識向上	34
住宅ローン等融資での優遇	6
雨水利用の必要性やメリットの周知	30
関連商品購入先や相談先がわかりやすいこと	10
公共施設や企業における率先した雨水貯留浸透施設の設置	25
そのほか	4



「そのほか」欄記述内容

- 対策の必要性は十分に理解できました。ただ、この実行が美しい景観意識を持ちながら実行されていくことが重要だと考えます。
- まずは、自治体の施設が重要では？
- 草津市内の公共施設でいくつか設置の実施を行っている

- 県の施策（なんでも条例が優先する方針）を直面する現場で実績を作る方向にシフトすることが肝心。例えば大戸川流域での取組。県下で流域を選ばれた
- コストを下げる工夫（タンクであれば5000円/100くらい）
- 条例等による義務
- ためる効果と費用の関係の明示
- 地下水取水の制限により雨水貯留が進むと考えます。初期降雨の汚濁処理も検討出来ないかと考えます。節水（水道水）と雨水流出削減をどう整理するかも問題と考えます。
- 下水道料金との関係など（行政の施策として必要なのであれば）はっきり示すことが必要 補助が2市だけというのはいかがなものか
- 有事の際に貯留施設の場所が分からず、活用できなかったというアンケート調査をみたことがある。標識（反射看板）などの位置を示す方法が必要である。
- 水害を他人事と考えないこと。台風などの被害があったときに、みんなで一緒に対策・改善などを考える（日頃からも意識できればいいが）
- 次世代への教育、重要です
- 行政主導で条例もしくは指導要綱を定める
- 雨水浸透については、洪水対策の一環として、もっと税金（金）を出すべき。地下水については、見えないので「見える化」が必要では。
- パンフレットに活用家族の事例があるとイメージしやすい。
- 市民共同雨水貯水場みたいなのがつくるといいですね。トイレからタンクまでのフィルターが安く手に入るといい。私はトイレから直接ためているのでタンクの中が汚れます。

Q.5

- 5 その他、シンポジウムへのご意見・ご感想を聞かせください。

記述内容

- まちづくりのため、行政の人の気持ちのもりあがり又住民意識のもり上げ方の技量と情熱に感服しています。
- 大変すばらしい取り組みを知りました。又機会があれば参加したい。
- 子どもの頃からの住まいに対する教育（住育）の必要性を改めて感じた。住まう事への色々な事例を多く発信していく必要がある
- 資料の文字が小さいのがとても残念でした。（せっかくの資料が読めない）
- 講師が使用するマイク装置。音、トーンが高く聞きにくい
- 今回から趣が少し変わったように思われる。より治水が身近になったように思われる。知事の最初からの継続的な出席を望む

- 県内各地で開催してほしい
- 外へ出やすい気候の時期での開催
- 大変参考になりました。これからの家づくりに生かしたい
- 「ためる対策」にポイントを絞ったシンポジウムで良かったと思います。次回は「そなえる対策」で、各地域で取り組まれている内容とされてはいかがでしょうか
- パネルディスカッションは時間不足
- 来年もよろしくをお願いします
- 既存建築物に対する「ためる対策」を行政が積極的に取り組む姿勢を見せる必要がある。民間企業へ推進していく。具体的な方針を提示する 「法令化」 補助金の取り込み
- 滋賀だけでなく、他地域、教授、市民代表、企業など様々な話を聞いてよかった。今後の水害対策に向けて色々学べた。また水との接し方、自然との接し方を考えていきたい。立命館大学内に貯水池があり、また雨水の再利用も試験的に取り組み始めました。大学の講義でも土木・災害対策などもあり、今回のようなシンポジウムは大変大きな学びとなりました。ぜひ、学生への広報も大学での講義開催などもお願いします。
- 行政が積極的に周知、広告はすばらしい試みです。感謝いたします。
- 滋賀県庁等行政の報告はなかった。さみしい
- パネルディスカッションは短時間すぎて、パネラーも多すぎて無理と思います。滋賀県職員のやわらかさ。
- 世田谷区の協働事業について、より詳しく知りたいと思った。（世田谷の活動内容や貯留・浸透施設設置のほとんどが世田谷の呼びかけによるものなのか・・・など）
- 玄関から 3F 会場への案内～詳細に明示（看板）案内の配置